



現在の子どもの様子	ねらい	行事	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンゴ虫や幼虫、おたまじゃくしなどの生き物に興味をもち生態を調べる子もいた。</li> <li>・担任との信頼関係ができ、甘えをみせるなど親しみさが増すが、 「羽目を外してしまう子もいる。」</li> <li>・朝夕の支度など、身の回りのことは自分でできるが、面倒な気持ちもあり、なかなか進まないこともある。また、それぞれのペースに差がある。6月から泥遊びや水遊びの支度も加わるので、丁寧にやり方を教えていく。</li> <li>・ルールのある遊びにも興味を持ち、子どもたちだけでも遊ぶ姿が見られた。</li> <li>・食事面では、自分で食べられる量を調節することで完食する子が増えた。箸を使う子も増えてきたが、まだ握り持ちになりやすいので取扱いや使い方を教えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の流れがわかり、身の回りのことを丁寧にやろうとする。</li> <li>・気の合う友だちと一緒に、好きな遊びを楽しむ。</li> <li>・思っていることを言葉で伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者情報訓練(5日)</li> <li>・避難訓練(14日)</li> <li>・英語(8日・22日)</li> <li>・幼児集会(20日)</li> <li>・健康診断(12日)</li> <li>・プール開き(29日)</li> </ul> <p style="text-align: center;">地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩先で挨拶をしっかり交わし、交流を持つ。</li> </ul>	

内容	環境構成	保育士の配慮	取り組みの状況と保育士の振り返り
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">養護生・情(健・人・環・言・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨期の保健衛生に配慮し、心地よく生活ができるようにする。</li> <li>・子どもの思いを受けとめながら、遊びや生活ができるようにする。</li> <li>・汗をかいたら、着替えたりシャワーを浴び気持ちよく過ごせるようにする。</li> <li>・水、砂、土、泥の感触を味わいながら自分なりに試して遊ぶ。</li> <li>・水遊びに必要な支度や始末の仕方を知り、自分で行おうとする。</li> <li>・簡単なルールのある遊びを、保育者や友だちと一緒に楽しもうとする。</li> <li>・異年齢での活動や会食を通して、他クラスの友だちや保育士との関わりを深めようとする。</li> <li>・身近な生き物、植物、栽培物、野菜の生長に興味を持ち、世話をしようとする。</li> <li>・自分の気持ちを言葉で伝え、友だちと話し合おうとする。</li> <li>・音楽に合わせて踊ったり、友だちと一緒に歌うことを楽しもうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この時期の特徴を、絵本などを通して具体的に伝える。</li> <li>・気温や湿度に留意し、必要に応じて室温の調節を行う。</li> <li>・時間や気持ちにゆとりをもち、落ち着いて過ごせるようにする。</li> <li>・水遊びの支度の仕方を丁寧に知らせる。また、動きやすい綱線を意識する。</li> <li>・泥、水遊びの支度、片付けが自分たちでしやすいようカゴなどに入れて用意しておく。</li> <li>・ルールのある遊びをする機会をつくり、継続する。</li> <li>・グループ分けをし、自分がどのグループなのかを伝える。</li> <li>・飼育箱、園鑑を用意する。栽培物(パプリカ・なす・しそ)は目につく場所におく。</li> <li>・子どもたちが安心して話ができるよう、ゆったりした雰囲気をつくる。</li> <li>・思っていることを言える場、言ってもいい場をつくり、安心感が得られるようにする。</li> <li>・体操のCDや、季節感のある曲、子どもたちが楽しめるような曲を用意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉と視覚で伝えることにより、理解を深める。</li> <li>・一人ひとりの様子を見守りながら、体調の変化に気を付け、水分補給や汗を拭いたり、着替えたりするように促す。</li> <li>・絵本などを用いて、ことばと視覚から伝えることにより、梅雨期の理解を深めていく。</li> <li>・友だちと遊ぶ楽しさが感じられるようにする。</li> <li>・子どもたちの発見や、やってみようとする姿をとらえ、水や砂、泥で遊ぶ楽しさを知らせていく。</li> <li>・一日の生活に見通しがもてるよう声をかけ、自分でできるよう見守る。</li> <li>・一緒に遊びながら繰り返しルールをという経験ができるようにする。</li> <li>・日々の生活の中に異年齢交流が自然と入っていくように無理なく進めるようにしていく。</li> <li>・他クラスの担任と個々の姿を共有しながら子どもたちが安心して過ごせるようにする。</li> <li>・水やりの順番を子どもたちで決められるよう仲介したり、見守っていく。</li> <li>・子どもの気づきに共感し、一緒に調べて関心を高める。</li> <li>・わからないことを聞きかけをつくり、関わりがもてるようにする。✕</li> <li>・自分の思いを伝えるだけでなく、相手の主張にも耳を傾けたり、自分の言動も振り返れるように丁寧に対応していく。</li> <li>・子どもが歌ったり踊ったりしている姿を認め、保育士も一緒に楽しむ事で、まわりの友だちにも楽しさを知らせていく。</li> </ul>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">食育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培している野菜に興味を持って世話をしようとする。</li> <li>・給食のメニュー、食材に興味・関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝、野菜の様子を見て触れる機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事前に、どんな食材が入っているかなど声をかけ、興味や関心がもてるようにする。</li> </ul>	